

市長としゃべらんで

地域おこし協力隊×原井敬市長

吉野川市に2016年度以来となる「地域おこし協力隊」の隊員3人が着任しました。市長とのトーク企画「市長としゃべらんで」の記念すべき第1回目となる今回は、今後、吉野川市で活躍が期待される地域おこし協力隊の皆さんと原井市長のトークセッションの様をお伝えします。

なぐら なお
滑良奈央大阪府出身
コワーキング・シェアオフィス Ki-Da 勤務

原井敬市長

まんかわ しょう
萬川 奨

和歌山県出身 美郷ほたる館勤務

ほんだ きり
本田希里

北海道出身 阿波和紙伝統産業会館勤務

阿波和紙に魅せられて
吉野川市へ

原井市長 こういう場を持つことは僕のかねてよりの希望でございまして、地域でいろいろ頑張っている方々とのお話を「広報よしのがわ」の中で定期的に記事で載せていこうと。今回がその第1回目であります。

滑良隊員 私たちが一番目でもいいんでしょうか(笑)。

原井市長 タイミング的にはよかったです。誰か対談できる若い人がいないかと考えていたところです。今日はフリートークでざっくばらんに話したかったらと思います。

本市としても久しぶりの地域おこし協力隊の受け入れができるということで、僕自身、うれしく思っています。僕の考えでは、これから地域おこし協力隊をどんどん受け入れて、本市で活動していただきたいと考えています。

早速ですがテーマの1つ目に入っていきたいと思いますが、

志望動機について皆さんそれぞれに

思うことを話してもらえたらなと。

本田隊員 私は美術大学で和紙を使った作品を作っていて、和紙を作る素材から関わりたかなと思って、去年の秋に阿波和紙伝統産業会館(以下・和紙会館)に行ったのがきっかけです。去年までは東京にいたので、もう少し自然の中に行きたいと思ったのと、四国は憧れの場所なので、移住したいと思いました。

原井市長 こちらにご親戚がいらっしゃるんですね。

本田隊員 はい、親戚から新聞に出てたねと連絡がありました(笑)。

原井市長 地元の新聞に載ったらいろんな人が声をかけてくれますね。余談ですが、僕も和紙会館の近くで育ちまして、小学校6年生のときに自分の卒業証書を和紙会館で紙を漉いて作りましたよ。

本田隊員 今も作ってるんですか。

原井市長 山川町ですが今も作っています。そういう文化がずっと続いてまして、自分で作った卒業証書を先生が卒業式で渡してくれる訳です。

滑良さんは?

滑良隊員 私も吉野川市にしようと思ったのは阿波和紙があったからです。いろいろ作品に使用する素材を探している段階で阿波和紙に行き着きました。

それで、和紙に携わる仕事を手伝わせてもらうために、去年の夏に和紙会館に来たのがきっかけです。

配属されたコワーキング・シェアオフィスKi-Da(以下・Ki-Da)は今年オープンする新しい場所です、ここにすぐく人を集めたいということが伝わってきましたし、私は人と関わることに対して苦手意識を持っていないので、この仕事は向いていると思っています。今はオープン準備で、ロゴのデザインや利用表などを作らせてもらったりしているんですけど、いろんな人に見てもらうために作るのはいっぱい楽しいですね。

原井市長 以前の面接のときも聞いたけど、留学経験があると…。英語はだいぶ得意だったの。

滑良隊員 アメリカのアトランタに中学生のときに1年くらい留学していました。英語は日常生活に必要なくらいはできます。

原井市長 和紙会館には外国人のアーティストも定期的に来るし、観光でもね。

滑良さんは版画をしてみましたよね。作品をKi-Daのインテリアとして飾ってもらってもいいし。

滑良隊員 オープンまでには、ここに作品が並ぶ予定です。

原井市長 是非若い感性でここを新しい空間にしてくれたらと。その方が若い世代が集まりやすいだろうしね。

